一人一人の納税が人を救う

伊奈町立小針中学校３年　　野﨑　妃菜

税金についてあまり深く考えたことがなかったが、小学校五年生の時に「税に関するハガキコンクール」に挑戦し、税金のあり方について絵で表現をした。コンクールで大きな賞をとることができ、改めて税金について考えるきっかけとなった。

私の暮らす日常は税金が多く関わっており、学校・施設・公園・道路・病院・義務教育期間に使用する教科書・机・イス・医療費など様々な物が税金と深く関係があり、自分達の生活を支えているということが分かった。それは、国民が納税をすることで人々を助け、また、自分も助けられているというサイクルであることが理解できた。あたり前すぎる日常であるため気づきにくいが、税金によって生活が成り立っているということを忘れてはいけないと感じた。

私の祖母は去年病気で他界した。私が産まれる何十年も前から腎臓を悪くして、約三十二年間、人工透析という治療を行っていた。病気は腎臓だけでなく、心臓や腸、血管など様々な疾患を持ち、その度に入院、手術を送り病院での生活を送っていた。退院後も継続した通院を要するために、国や県、町のサービスを利用していた。母は看護師なので、私は祖母の治療方針や予後についての話しを聞かされていた。

人工透析にかかる費用は月約四十万円程かかる。年間にすると四百八十万円であり、祖母は三十二年間で計一億五千三百六十万円を必要としていた計算となる。身体障害者手帳一級保持者であるので、月一万円の医療費の支払いで、国の最先端治療を受けられていたこととなる。税金のおかげで祖母は命を繋いでもらえていた。

状態が悪くなり入院したあの日、救急車を使って、救急隊員の方々に安全に搬送して頂いた。病院では、医師や看護師の方々の懸命な力で命を繋いで頂けた。感謝でいっぱいである。納税義務のある国民の力により治療を受けることができ、病気の祖母と十四年間を暮らすことができた現実がある。

人は、納税という義務の大切さを十分に理解し、正しい使い道で人々が助けられているという意識を強く持つべきである。

今回私は、祖母と暮らし様々な場面を見たり、母から色々な話しを聞くことで、税金のありがたみを知ることができた。人を思いやる気持ちを強く持ち、社会貢献のためにきちんと義務を守っていこうと思った。将来しっかりと納税できる様に、自分の目標である看護師を目指して努力していきたいと思った。看護師として働きながら命を助け、納税することで命を繋ぐ力になれる様に、今、自分にできることを精一杯頑張っていこうと決心した。